

第4回 あいちロボット産業クラスター推進協議会 委員会の論点整理

第1回から第3回までの主な意見

1. イベント誘致・海外交流について

- ロボカップ世界大会を機に、国際的なロボット研究者との交流を促進する。

2. 開発者と利用者との協働体制の構築について

- マッチングを通じて具体的なプロジェクトを組成すべき。
- ユーザー企業が研究開発段階から参画することが必要。
- 利用者ニーズを把握し、開発へフィードバックする迅速なサイクルが必要。

3. 研究開発や実用化の促進

- リハビリ訓練ロボットの開発は一段落。今後、介護・自立支援ロボットが重要。
- 立ち上がる、寝る、座る、階段を上がるといった基本動作をサポートするロボットの開発に期待。
- 自動車の素材やモノづくり技術をドローンに活かす。
- ロボットとITが融合した上での標準化が重要。
- 林業のような採算が取りにくい産業でのロボットの活用。
- スマホのように広く利用されるロボットの開発。
- 親しみを感じるデザインのロボットの開発。

4. 実証評価の促進

- ロボットのトライアルができる場、ロボットと一緒に生活できる実証フィールドが必要。
- 特区等を活用し、ドローンの実証実験場を増やすべき。

5. ロボットユーザーの創出

- 中小企業で利用されるよう需要を創出するような働きかけが必要。
- 利用側がロボットに対する正しい認識を持つことが重要。
- ロボットを普及させるためには、システムインテグレータの養成が重要。
- 自立支援していく文化醸成が必要。

6. その他

- 規制緩和やロボット特区等を国に提言していくべき。
- 実用的なロボット開発ができる若手人材の育成が必要。
- 若年層にロボット産業に関心をもってもらいたい。

平成28年度 取組実績 (平成29年2月末時点)

1. イベントの誘致・開催

- (1) ワールドロボットサミットの愛知県開催決定
 - ▷ 時期：2020年10月上旬の1週間程度
 - ▷ 開催地：愛知県国際展示場
 - ▷ 内容：競技大会(ものづくり、サービス等)、展示会、ロボカップアジアパシフィック大会[併催予定]
 - ▷ 主催：経済産業省、NEDO

2. 開発者と利用者との協働体制の構築

- (1) 本協議会の運営
 - ▷ 協議会会員数：382社・団体(78社・団体加入)
 - ▷ 総会開催：7月21日(参加者数:136名)
 - ▷ ワーキンググループ(医療・介護、製造・物流、無人飛行ロボット)開催
 - ・開催件数：6回
 - ・参加者数：延べ286名

3. 研究開発や実用化の促進

- (1) 知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅡ期の開始
 - ▷ 内容:次世代ロボット社会形成技術開発PJ 7件
 - ▷ 研究期間：平成28年度～平成30年度
- (2) 新あいち創造研究開発補助金による支援
 - ▷ 採択件数：全86件のうちロボット分野6件
- (3) あいちサービスロボット実用化支援センターの運営
 - ▷ 利用実績：相談件数84件、見学者数817名
- (4) 安全技術開発の支援
 - ▷ リスクアセスメント研修会、セミナー、専門家派遣の実施
- (5) 文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」の採択
 - ▷ 藤田保健衛生大学・愛知県 「高齢者の安心快適実現『ロボティクススマートホーム研究実証拠点』」

4. 実証評価の促進

- (1) 近未来技術実証プロジェクトの推進
 - ▷ 無人飛行ロボットPJ…無線局特例制度を活用し実施
 - ▷ リハビリ遠隔医療・ロボットPJ…医療機関での実証実施
- (2) 実証評価する場の提供
 - ▷ 愛・地球博記念公園…3社、10回
 - ▷ 名古屋港埋立地…31社、113回
 - ▷ 矢作川浄化センター…9社、30回

5. 情報発信

- (1) 展示会への出展、PR動画の配信
 - ・展示会出展：ウエルフェア2016、国際福祉機器展2016、Japan Robot Week 2016、メディカルメッセ

平成29年度 取組計画【新規】

1. ワールドロボットサミット開催準備

2020年に「ワールドロボットサミット」の本県での開催に向け機運醸成を図るとともに、同時開催を予定しているロボカップアジアパシフィック大会の招致活動を行う。

2. ロボカップ2017世界大会開催

7月に開催する「ロボカップ2017名古屋世界大会」に地域一丸となって支援する。

3. 産業用ロボット導入促進支援

中小製造業を対象に、産業用ロボットの導入・活用に関するセミナーを開催し、ロボットメーカーやシステムインテグレーターとのマッチングを支援する。

第4回委員会の論点

1. ワールドロボットサミットについて

開催を契機として行政、産業界、教育機関が取り組むべきこと、期待することなど

2. 人材育成について

次代を担う人材やロボット開発者、システムインテグレーターを育成する方策など

3. 新規ロボットユーザーの創出について

介護分野、モノづくり分野、インフラ分野など、ロボットの導入を促進する方策など